

## 令和4年度きのくにコミュニティスクール座談会（岩出市）

日時：令和4年12月21日（水）13：30～15：30

会場：旧和歌山県議会議事堂 議場

参加者：28名（校長7名 教頭3名 教諭1名 学校運営協議会委員10名 学校評議員1名  
PTA1名 市町村行政職員5名）

テーマ：「地域と共に進めるCS」

講師：和歌山県CSマイスター 森 博司 氏 下田 喜久恵 氏

### 1 ミニ講演（事前に参加者から頂いた質問にCSマイスターから回答してもらった。）

#### Q. 学校運営協議会委員の人選や人材確保について。

森 氏 学校の教育活動を支えてくれる人を選出すれば効果的である。教員OB、地区役員にコーディネーター役をお願いすれば、仲間を見つけてきてくれる。若い人材の確保が難しいが、都市部の自治体では大学生を活用することもできるのではないか。

下田氏 マネジメントの視点で意見を出してくれる会社の社長や経営者に委員になってもらったことがある。学校の事情がわかる元教職員にも委員になってもらった。人材確保にあたり保護者に呼びかけるのも良いと思う。協力してくる人はいる。

#### Q. 学校運営協議会を活発化するための方法。

下田氏 ①司会は委員が行う。②ホワイトボードを活用。（協議内容の見える化）③委員も学校メールに登録（学校の動きを知るため）④役員会の開催（事前に協議内容や進め方を確認しておく）⑤学校運営協議会開催案内の工夫（事前に委員に協議内容を知らせておく）⑥目指す子供像の提示（共有した目指す子供像の内容を忘れないため）

#### Q. 学校と地域とのネットワークづくりの定着化の事例について。

森 氏 串本町では南海トラフ地震、津波への防災対策が大きな課題である。そのため、学校と地域が一体となって防災に取り組んでいく必要がある。串本町のN地区のコミュニティ・スクールでは、小・中学校と地域が合同で避難訓練をかねた避難所巡りを毎年行っている。この活動は地域の課題解決、活性化につながることもあり、校区内の各自治会が毎年学校に活動資金を提供している。避難訓練以外に地域清掃も小・中学校と地域が合同で行っており、地域の方と子供たちが交流する機会になっている。今後予想される地震や津波等の自然災害に備えるためにも、学校とのつながりを定着化していくことが必要である。そのためにも学校を核としたネットワークづくりが効果的である。



Q. 教職員にコミュニティ・スクールの認知度をあげるためには。

森 氏 学校運営協議会での協議内容をホワイトボードにまとめ、校内に掲示しておく。地域学校協働活動の担当を教員が行うことで認知度があがっている事例もある。教育計画にコミュニティ・スクールの目的、運営計画、学校運営協議会委員、コーディネーター、組織図を明記することで記載することで教職員の認知度も上がる。

下田氏 知識としての仕組みを知っている人は増えてきた。さらに、理解度の高い先生を中心に広まっていけばと思っている。

Q. 来年度に向けて学校運営協議会委員にどのような働きかけをすればよいか。

森 氏 年度末の学校運営協議会において成果と課題を総括し、少しでも前進していることを委員が実感しておくことが大事。それが、委員の力量向上につながる。

Q. 学校運営協議会連絡協議会について

下田氏 有田市では、連絡協議会（会長会）があつてこそコミスクが活性化し、前進してきた。情報を共有するだけでも委員同士の刺激になる。連絡協議会では、「コミスクっていいね。子供の見守りが増えたよ。」「熟議ってなんだろ。意見言って終わっている気がするときもあるけれど。」「有田市のコミスク頑張っているよ。これからも自信持って取り組んでいこう。」など成果や疑問等が活発に出され、委員のモチベーションアップにつながっている。

## 2 交流（班に分かれ協議し、班から出た疑問にCSマイスターから回答してもらった。【☆】）



- ・ 応援隊として、20分休憩に子供と地域の人との交流をしている。
- ・ 空き教室を活用し、「地域交流教室」として活用している。
- ・ 学校と地域のつながりを広めるためにはどうすればよいのだろう。

☆ 子供を主体にして、教職員、地域の人、保護者を巻き込むとつながりが広がっていきます。

クラス単位で地域の一部の人とのつながりはあるが、学校全体と地域ぐるみのつながりはない。コーディネーターはどのような人がいいのだろうか。



☆ 校長がビジョンをしっかりと持ち、それに理解・共感してくれる地域の人を学校運営協議会委員やコーディネーターにすることが大切です。



登校時の見守りを今年度から育友会でやっていくことにした。保護者は協力的である。

☆ 保護者と地域住民と接点がある地域ならば、あいさつ運動、祭りや防災訓練等の具体的な活動について熟議を行うと良いです。

- ・マンモス校であるので、地区外からの流入者が多く、親同士の交流が少ない。そのため、当番制の見守りや授業支援の実施を始めた。
- ・CSが動き出した時の協力者を集うため、学校やCSの取組を知ってもらうHPを充実させている。



- ☆ 悩みが出るということは、取組が進んでいる証拠です。協議の内容、学校運営協議会でも熟議してみましょう。



学校運営協議会委員は校長、教頭と話す機会はあるが、先生方と話す機会が少ないので、学校運営協議会に先生方にも入ってもらいたい。

- ☆ 雑談から地域を知るきっかけにもなるので、先生と地域の人が話す機会を作ってみてはどうでしょうか。

学校運営協議会は機能しているが、地域から人を集めるのが難しいため、地域学校協働活動がうまくいかない。



- ☆ 地域学校協働活動がうまくいかない悩みを学校運営協議会で相談してみてもいいでしょうか。すぐに解決できなくても課題を委員で共有しておくことが大事です。

### 3 参加者感想

- ・ 共育コミュニティを進めていくコーディネーターを選ぶことに苦労しました。コミュニティ・スクールと共育コミュニティの違いや、関係性の理解が学校でできていないと思います。本日の座談会で地域社会との結びつきを大切にすることが必要と感じました。
- ・ 管理職だけでなく、学校運営協議会に担任の先生を参加させていきたいです。
- ・ 学校を核にそれぞれの立場で話し合うことが、とても大切だと改めて感じました。職員への周知もこれから進めたいと思います。
- ・ 小・中学校のコミュニティ・スクールの現状、課題などをお聞きすることができて、大変参考になりました。高校とは少し教育課題が違いますが、取組には興味深いものがありました。
- ・ 「学校運営協議会で解決できないことでも、みんなで共有することが大事」というのが響きました。
- ・ 小さなことでも続けていき、課題ができればその都度対応し取り組んでいくことが大切なのだと感じました。
- ・ 何度研修を受けてもコミュニティ・スクールにゴールはないと感じます。何回も同じことを聞き勉強していますが、毎回新鮮であります。同じグループの方も色々悩みながら行動されているので、自分も頑張らねばと感じました。
- ・ 悩みを出し合う時間を持つためには、年間3回の運営協議会では難しいので、仕組みを変えていく必要を感じました。
- ・ 様々な立場の方が集まって意見交換できて良かったです。CSマイスターさんのお話で、まず悩みや意見を共有することが大切とおっしゃられたのは心に残りました。最後に地域の目標を「子供たちの成長のために」と掲げることで、共通の目標となれば協力しあえるのではと思いました。